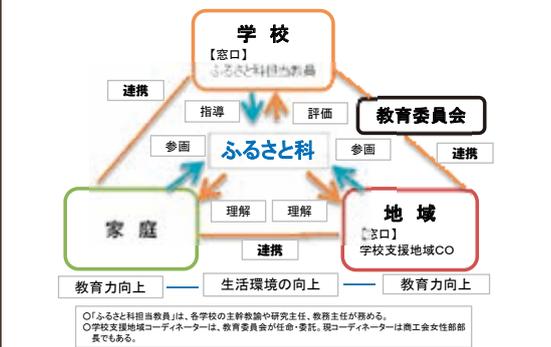


# 「ふるさと科」を核として学校・家庭・地域が連携・協働する教育活動

|        |                  |                                      |
|--------|------------------|--------------------------------------|
| 岩手県大槌町 | ● 活動名            | ● 関係する学校名                            |
|        | 大槌町教育委員会地域学校協働本部 | 大槌町立大槌学園、大槌町立吉里吉里学園小学部、大槌町立吉里吉里学園中学部 |

|                   |   |               |             |          |       |
|-------------------|---|---------------|-------------|----------|-------|
| 開始年度              | 平成 24 年度  | 学級数           | 20 学級       | 児童・生徒数   | 627 人 |
| 活動内容              | <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 環境整備<br><input checked="" type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ( ) |               |             |          |       |
| 統括的な地域学校協働活動推進員の数 | 配置人数<br>0 人   | 地域学校協働活動推進員の数 | 配置人数<br>2 人 | 連携団体・企業等 | 大槌商工会 |
| ボランティアの数          | 登録人数<br>74 人  | 属性            | 地域住民        |          |       |
| 参考 URL            |   |               |             |          |       |

● 体制図



● 連絡先 大槌町教育委員会事務局学務課 ☎ 0193-42-6100

● 活動の概要・経緯

東日本大震災津波により大きな被害を受けた大槌町では、この震災から立ち上がる復興・防災を基盤とした「生きる力」・「ふるさと創生」の教育を推進し、ふるさととの将来を担う人材の育成を目指してきた。町では、学校・家庭・地域が一体となって子供たちを育む仕組みとして「小中一貫教育」を導入し、その柱として大槌町独自の学習領域「ふるさと科」を創設。「ふるさと科」に係る会議の中で、大槌町と提携している大学関係者から、「地域人材を効果的に活用しながら「ふるさと科」を充実させるには、地域と学校をつなぐ『学校支援地域コーディネーター』の設置が必要である」との助言を受け、以前から大槌町に居住し、各関係機関等ともつながりのあるコーディネーターを1名配置。学校支援地域カレンダーの作成やふるさと科のコーディネートを行う。

## ● 活動の特徴・工夫

**【特徴的な活動内容】**  
 コーディネーターが、学校や地域住民等との連絡・企画調整を行い、地域や学校の実情に応じながら特色ある活動を充実させている。「ふるさと科」では、復興に取り組む地域産業に関する学習、防災教育・ボランティア教育・福祉教育・キャリア教育といった必要な教育内容を盛り込み、継続性、系統性を重視したカリキュラムを9年間にわたって実施することにより、地域参加型の豊かな体験の創出と学びの充実を図っている。ここでは、多くの町内の個人商店をふるさと科の講師等として招くことで、「新巻鮭作り」や「わかめの学習」等の創意工夫のある多様な活動をサポートしている。また、地域と学校の教育活動について共有・理解が図られるように「学校支援地域カレンダー」を作成し、学校関係者や保護者、町内の企業、地域ボランティア等にも配布し、学校の予定を地域等と共有することによって、地域と学校の連携・協働の充実にも努めている。

**【実施にあたっての工夫】**  
 1 コーディネーターが、カレンダーの編集の際、一ヶ月ごと丁寧に、地域の方も一緒に写っている写真をバランスよく選定している。  
 2 「井戸端会議室」を設置して、コーディネーターが常駐することで、「地域学校協働本部」の拠点になっている。地元の有志「若だんな会」をはじめとする地域人材の活用による地域との連携・協働を推進している。  
 3 コーディネーターが各学校の計画に沿って、たくさん地域人材と連携・協働する機会を設定。新年度には共通理解を図るために、教育委員会と各学園の担当の先生方と「打ち合わせ会」を実施し、ふるさと科の1授業の度に少なくとも5回の打ち合わせを実施している。

## ● 事業を実施しての効果・成果

- 1 カレンダーの写真を見た地域住民と保護者の学校や「ふるさと科」への理解が進んでいる。
- 2 地域の先生となったボランティアの方から「子供たちと関わりを持ってうれしい」「学校との距離がいつそう近くなった」等の声がある。
- 3 コーディネーターにより地域と学校が繋がれたことによる、互いの連携・協働の促進。また、コーディネーターが教育的価値に照らした地域人材を見出し、継続的につないでいくことにより「ふるさと科」が充実してきている。
- 4 「ふるさと科」の充実により、「ふるさと科が好き」と回答した児童生徒が8割（27年度）から9割（28年度）に上昇。

## ● その他

**【連携している企業等】**  
 ・大槌町教育委員会・はまぎく若だんな会・大槌商工会・どっこいしょK・福幸きりり仮設商店街・新おおつち漁業協同組合  
 ・大槌町農業協同組合・吉里吉里長寿会・沢山自治会・大槌町屋敷前災害公営住宅自治会・町内各事業所



ふるさと科「鮭学習」における新巻鮭作り  
 漁協・漁師・鮮魚店との連携・協働により実現



ふるさと科「職場体験」  
 学校支援地域コーディネーターが研修で学んだ職場体験の進め方を大槌版にアレンジし、町内約70事業者にコンタクトをとり実施。

ポイント

「ふるさと科」の活動を町内の様々な事業所と連携して実施している点、コーディネーターが核となり「井戸端会議室」を開放することで、日常的なつながりをつくっている点など地域事情に即した活動が素晴らしいですね。